

Lateral approach sinus lift を用いた上顎洞挙上術の 1 症例

演者 医療法人 徳治会 長野歯科医院 八田 知之

発表日 2012年10月23日

Keywords : 1. Lateral approach sinus lift
2. 上顎洞底一歯槽頂間距離

緒言 歯槽骨の吸収に伴い上顎洞底部との距離が近接し、インプラント植立が困難な症例は比較的多い。その際、治療オプションとして局部床義歯、ショートインプラントを植立、または上顎洞挙上術を併用したインプラント植立等がある。
今回、重度歯周疾患にて上顎大臼歯部を喪失した部位に対し、上顎洞挙上術 (Lateral approach sinus lift) を用いたインプラント植立を行った症例を報告する。

症例 患者は60歳、女性。初診日 2009年12月9日 (当院にて最終補綴移行後、不定期来院) 左側上顎臼歯部の疼痛を主訴に来院。同部は保存不可能なため抜歯処置を施行。欠損部に対し、患者はインプラント補綴を希望したため、上顎洞挙上術 (Lateral approach sinus lift) を併用し、インプラント植立を行った。インテグレーション獲得後、プロビジョナルにて経過観察を行い最終補綴へ移行した。

まとめ 上顎洞との距離がない場合、上顎洞挙上術を行い、インプラント植立を行うことは、患者にとって有効な手段である。今症例において、上顎洞底一歯槽骨頂間距離が約5ミリであったため、Lateral approach sinus lift を用いてインプラントを植立した。上顎の支台歯数が少なく、不安の残る状態のため今後もフォローアップが必要と考える。
ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。